

1. 日本政府がケアセンターに1,000万ドルの寄付

3/10、外務省の Koy Kuong 氏は、「日本政府はカンボジアプノンペンの National Maternal and Child Health Center (NMCHC) に対して、1000 万ドル以上の寄付を行っています。カンボジアと日本の友好関係は、日に日に深いものになっています」と話した。カンボジアは東南アジアの中でも最悪の産婦死亡率をもつ国のひとつである。2013 年の State of the World Report によると、カンボジアでは 10 万回の出産で女性が 250 人死亡している。これは 2015 年の目標として掲げている産婦死亡率の 2 倍以上にもなるという。日本大使館のカウンセラー Takayoshi Kuromiya 氏と、NMCHC ディレクターの Tung Rathavy 氏からのコメントはまだない。

2. 国連、ポト派法廷に最大15億円拠出へ

4/09、国連総会(193 カ国)は、カンボジアの旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷に対し、国連が最大 1,554 万ドル(約 15 億9千万円)を拠出できる権限を潘基文事務総長に与える決議案を全会一致で採択した。今年1年の特別法廷予算の約半額に相当する。特別法廷はカンボジア政府と国連が共同で運営しているが、資金は日本などの支援に頼っており慢性的な資金難が続いている。国連が通常予算から拠出するのは初めて。決議は、裁判のさらなる長期化が懸念されていることを念頭に、特別法廷が裁判の完了に向けた「戦略」を取りまとめ、年内に国連総会に報告するよう求めている。特別法廷では、ヌオン・チア元人民代表議会議長ら元最高幹部2被告に対する裁判が継続中で、最初の罪状の審理が昨年 10 月に終了。今月から6月ごろに判決が言い渡される見通しとなっている。

3. カンボジアの経済特区、青島で企業誘致

中国山東省青島市でこのほど、カンボジアのシアヌークビル港経済特別区が初の投資誘致説明会を開催した。同区に進出する青島の企業は現在2社。青島保利紡績は生産拠点建設中で、5月にも操業を開始する。金属メーカーのK KFFはすでに操業している。青島の労働集約型企業にとって、カンボジア投資のメリットは、中国の約3分の1という賃金で、国内で年々高くなる人件費に悩まされる現在、賃金に比較して質の良い労働力も魅力だ。また、開発途上国として、先進諸国が関税障壁を低くするなど、先進国向けに輸出コストの削減が見込める。一方、カンボジアはサプライチェーンが整っておらず、原料などを同国に輸送する必要が生じる場合もあり、コストや生産サイクルに影響する懸念にも留意すべきだと呼び掛けている。この点で、初めて投資する際は、特区への進出である程度、安定的な環境が期待できるとしている。

4. 工場から有害物質垂れ流しか

3/26、Kampong Chhnang 州の Peani 地区に暮らす 40 世帯が、現地の工場が有毒液体を垂れ流しにしている、として訴えを起こした。Krang Ta Ekh 村で生活する 40 世帯の代表として Kong Yom さん(40 歳)は、「機織り工場である The Best Season が自分達の村を破壊しているとして不平を訴えたのは、これが初めてではありません。私達は自治体に対して、これまで何度も仲裁を行ってほしいと求めてきました。しかし会社は私達の田んぼを有毒液体で汚染し続けます。すでに 50 ヘクタールもの田んぼが破壊されています」と話した。

村人のひとり Oeurn Nit さんは、「ドライシーズンの間、村人にとっては Krang Ta Ekh 川が唯一、綺麗な水を得ることのできる場所であったが、工場が引き起こす環境汚染のせいでそれもできなくなってきた。化学成分がどういったものなのか私達が理解しているわけではありませんが、それらは川の水を濁し、臭くします。また、その水で顔を洗えば皮膚がかゆくなってくるのです」と話し、同じく村人の Rith Soth さんは、「もう何年にも渡ってこの工場は有毒液体を川や田んぼに流しているが自治体は工場を一向に罰しない」と話す。

Kampong Tralach の政治家である Taim Saroeurn 氏は、「環境省は 2013 年、この工場に対して警告状を出しています。周辺の環境汚染を防ぐ手立てをちゃんと考えない限り操業をやめさせる、といった内容のものです。その手紙を受け取った後に工場は、有毒液体を垂れ流さないための協力的なタンクを設置し、それを綺麗にろかすためのフィルターも設置しました。この新しいケースについて、何が起こったのか私にはまだわかりませんが、しかし私は州の環境専門家と協力させて、すぐにも職員を調査に送るつもりです。また、もし村人の訴えていることが本当だと明らかになった時には工場の操業を一旦ストップさせることになるだろう」と話している。

The Best Season のマネージャーである Tut Sokunteara 氏は、有毒液体を垂れ流しにしていることについては否定しているが、「タンクに裂け目があるのかもしれない。技術的にまだまだ途上段階にはあると思います。しかし、改善していくつもりです」と話している。

5. Wing Star 社でストライキ発生

3月の第4週、何千人もの労働者達が、Wing Star Shoes 工場周辺で、月額ボーナスの5ドル増も含め11もの要求項目を主張し、5日間にわたってストライキを行った。しかし3/24、ストライキを終結させ、「本日より仕事に戻る」との提案に合意した。この合意の前に行われた話し合いでは、ストライキ期間中の賃金の支払や、またボーナスの2ドルアップが決定した。このストライキを計画した人物の Free Trade Union の副代表である Phorn Phal 氏は、「労働者達は、明日から仕事を再開させることに合意しました。会社はストライキ期間中の賃金をカットしないこと、また、交通費と昼食代をそれぞれ付きに1ドルずつアップさせることを決定しました。これは小さな進歩ではありますが、労働者達は一旦この条件で受け入れることに同意しました。他の項目に関しては、これからも交渉を続けていくことになります」と話した。

州の労務職員である Sim Rattanak 氏も3/24、会社と労働者が仮合意を行ったと発表。「今日の午後に会社側から書類を受け取りました。書類の中で会社は、ストライキ期間中の賃金カットはしないこと、交通費と昼食代にもう1ドルずつ支払うことを明確にしています」と話している。Wing Star に勤める Bin Sreymom さんは、「今日から仕事に戻るようとの通知を受け取った。通知には、私達の要求していた点を受け入れるので仕事を再開するように、といったことが書かれていました」と語った。

Wing Star Shoes のアドバイザーである Mao Chhiv Song 氏は、「現在忙しくそれに対してコメントはできない。ストライキによって会社の損失は1日15万ドルも発生している。もしストライキが止まないようなら工場の操業はこれ以上続けられない」、と話している。

6. いっせいで有給休暇取得闘争開始

3/27、労働組合の代表達は、「クメール正月が明けたのち、賃金が支払われるべき有給休暇制度を利用して、自宅待機ストライキを一斉に行う予定である」、と話している。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)は、8つの労働組合の代表たちは今日の午後 Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)に対して手紙を送る予定であり、その中で自分達のメッセージを、工場に勤めるすべての労働者たちに伝えるよう要求したという。Community Legal Education Center の労働プログラム Moeun Toll 氏は、「工場のオーナー達に対して、4月17日から23日までの労働者の賃金保証を行うように手紙で要求しました。オーナー達からの返事がなんであろうと、その期間中、労働者は自宅待機という形のストライキをおこないます。クメール正月明けに有給休暇を同時にとることによって、実際のストライキを起こすわけではないが、それは政府へ大きなプレッシャーになるでしょう」、と話す。

「どうしてストライキではなく、あくまで“有給休暇”といった形にするのか」、といった質問を投げかけられた C.CAWDU 副代表の Kong Athit 氏は、「政府との間がこじれて、暴動などに発展させたくないからです」と話した。それに対して GMAC の事務局長である Ken Loo は、「労働者には、年次有給休暇をとる権利があります。しかし、それほど多くの労働者が一度に有給休暇をとるということは、生産にも問題が出てくるということなので、工場側からしたら認められないことです。労働者は確かに有給をいつでも申請することができますが、それを却下するのも工場の権限になります」と話している。

労働組合はこれまでも、最低賃金を月額100ドルではなく160ドルまで上げるようにと、あるいは逮捕されている21人の罪状を取り消すようにと主張しており、その間ストライキは完全に途絶えることがなかった。また、そういったストライキとは別のアクションとして、プノンペン市内におよそ1万人を集めて5月1日に集会を行いたい、といった旨の申請を、労働組合側からプノンペン市に対して行う予定でいるようだ。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CADU)代表の Ath Thorn 氏は、「参加者たちは、まずフリーダムパークでイベントを開始し、その後、国会議会議場まで行進を行う予定だという。この申請を行う労働組合は、いずれも自宅待機ストライキにも参加するメンバーである。集会の予定日までまだ1ヶ月もあるので、プノンペン市はいくらでも考える猶予がある」と話す。しかし彼はまた、「市政府の返事とは関係なく、いずれにせよ集会は行うつもりだ」と話している。

市政府の職員である Pa Socheatvong 氏は、「2週間前にすでにフリーダムパークで集会を行うことを禁止している。野党によるデモ活動、そして縫製業労働者によるストライキの期間中に発生した暴動に関する調査が終わるまでは、この禁止状態は続く」という。市政府のスポークスマンの Long Dimanche 氏は、「ストライキとデモンストレーションは、1月3日と4日に最悪の事態へ発展した後、一端収束しているが、公式な調査が終わるまでフリーダムパークで集会を行うことは認められない」、と話している。

7. 労働環境、ウェブ上で確認可能に

労働組合や人権団体役員らは、「3/17より、カンボジアの労働法に従わない縫製工場の名前を明らかにするウェブサイト(<http://betterfactories.org/>)の運営を始めた」、と伝えた。このウェブサイトは、国際的な人権団体である ILO の Better Factories Cambodia (BFC)によって設立、運営されており、サイト上ではILOが定義する労働環境規制に、2つ以上違反している工場の名前が列記されることになるようだ。BFC のスポークスマンである Tivea Koam 氏は、「以前は、法に違反する工場の名前を公にする機会はありませんでした。もっと公的な目線からプレッシャーを与えて、ちゃんと法に準ずる工場を利用するよう、バイヤー達にも促すことが目的です。違法な労働環境をもつ工場に関するレポートが、サイ

ト上で閲覧可能になりました。掲載された工場は、労働環境の改善へ向けて何らかの処置をとることが促され、その改善段階の写真や詳細情報が、ウェブサイト上にアップロードすることが許可されます。これまではこういったレポートの類は、工場やバイヤーしか目に通すことができませんでしたが、これからは市民達もチェックできるようになります」と話している。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CADU)代表の Ath Thorn 氏は、「会社にプレッシャーを与えるためのツールです。これによって会社は労働環境を改善し労働法を遵守するよう取り組まざるを得なくなるはずですよ」と語っている。

労働人権組織 Solidarity Center の地域部長である Dave Welsh 氏は、「児童就労や労働組合の抑圧について Koam 氏は、頻繁に違反される内容のひとつです。また、こういったサイトによって縫製、靴製造に関わる労働環境に透明性がもたらされることは、工場側が法の遵守に積極的になる良い機会です。どの工場が劣悪な労働環境を強いて、どの企業がそういった工場と取引をしているのか、といった情報を公に向けて発信することは、多くの労働者にとっては利益につながるはずですよ。これはとても大事な第一歩です。しかし事態が一晩で変わる、というわけでは決してありません」と話している。GMAC の Ken Loo 事務局長からのコメントはまだない。

8. 労働者が労働環境を暴く

Cambodian Center for Independent Media (CCIM)は、縫製業に携わる労働者の中から数人を選抜し、彼らにジャーナリズム訓練を施すことによって汚職を暴く人材に育て上げようとしている。この訓練は完全に無料で、10 月まで続けられる予定。参加メンバーはこの国で何十万人もが従事している縫製産業の実態を、実際に働く労働者の毎日の視点から外部に伝えることが求められる。

このプロジェクトを推進させるメンバーのひとりである Hok Narin 氏は、「プノンペン市内の異なる工場からやってきた 10 名の縫製業労働者がいます。彼らはこのプロジェクトのために厳正に選ばれたメンバーであり、我々は彼らが工場内部、外部の情報をしっかりと私達に提供してくれることを期待しています。ストライキや失神事故、労働環境などに関する情報を求めています」と話した。さらに Narin 氏は、選ばれた 10 人にはトレーニング期間中、それぞれがスマートフォンを与えられたという。トレーニングを担うのは、報道機関である Voice of Democracy (VOD)。VOD は彼らの日々撮影する写真、ビデオ、テキストといった要素を収集して、それに対して 1 日 2 ドルを支払うのだという。労働者達はまた、収集した情報をそれぞれの SNS アカウントで発表することも自由だという。今のところ、Community Legal Education Center に選ばれたメンバー達はソーシャルメディアを扱う訓練や、ニュースを書くための基本的な技術などを学んだりしているようだ。M&V International 縫製工場に勤める 31 歳の Kong Srey Mao さんは、「今回こういった役割を与えられたことがとても嬉しい」と話し、「現在やっている仕事について、ちょっと変な感じはします。これまでは針と糸を扱っていたのに、今はペンやノート、それから写真を撮るためのスマートフォンを持ち歩いているのですから。縫製業労働者の現状に関してちゃんとした記事を書けるまで、私は精一杯の努力をするつもりですよ」と付け加えた。Srey Mao さんは、本当は小さな頃からジャーナリストになりたかったのだという。しかし家庭の生活水準が低く、6 年生の時に学校を退学せざるを得なかった。「一旦私が上手に記事を書けるようになれば、この工場に潜む問題がどんなものなのか、もっともっと多くの人に知ってもらえることができるのですよね」と彼女は言う。「私の人生も、変わるかもしれません」と続けた。

9. 労働組合内で内部抗争が発生

カンボジアでもっとも大きな労働組合の組織 C.CAWDU の 2 人のメンバーが、「不正や汚職の調査をしていたが為に、仕事から無理やり立場を追いやられた」として訴えている。C.CAWDU やメディア機関、いくつかの人権団体などに対して二人は 3 月 14 日付けで手紙を送っている。今回、訴えを起こしている Um Visal 氏と Roen Chanthorn 氏が述べている内容は、二人が希望していた雇用契約の更新が拒絶された、ということだった。「C.CAWDU の秘書官 Ek Sopheakdey 氏が 3 月 7 日に私達に送ってきた手紙では、私達が雇用更新の契約にサインしなかったから退職させる、と書いてあったが、私達はそれを拒否します」と二人は書いている。

Visal 氏は自分達が解雇された本当の理由は、2 人が EGarment 社の C.CAWDU メンバーと面会し、彼らに対して「組合は支払い遅延がある」などと主張したためではないか、と推測している。また C.CAWDU との賃金闘争に加わっている工場の労働者たちは、C.CAWDU 代表の Ath Thorn 氏や副代表の Kong Athit 氏と Sopheakdey 氏に対する訴訟状を書いて、プノンペン市裁判所に提出したようだ。そう話をしたのは EGarment の C.CAWDU 代表を務める Doung Tola 氏で、「彼らがおよそ 9 万 3 千ドルものお金を着服している」、と主張。

C.CAWDU 副代表の Kong Athit 氏は先週、この着服の申し立てを否定し、「これは、単に Visal 氏が C.CAWDU でのリーダーシップを奪い取りたいがために主張していることです」と、話した。しかし Visal 氏は手紙のなかでこれを否定した。2 人は C.CAWDU の設立当初からのメンバーである。

10. 最近の外資の進出状況

・バンコク銀、カンボジア支店を開設

バンコク銀行がカンボジアに支店を開設する予定。

以上